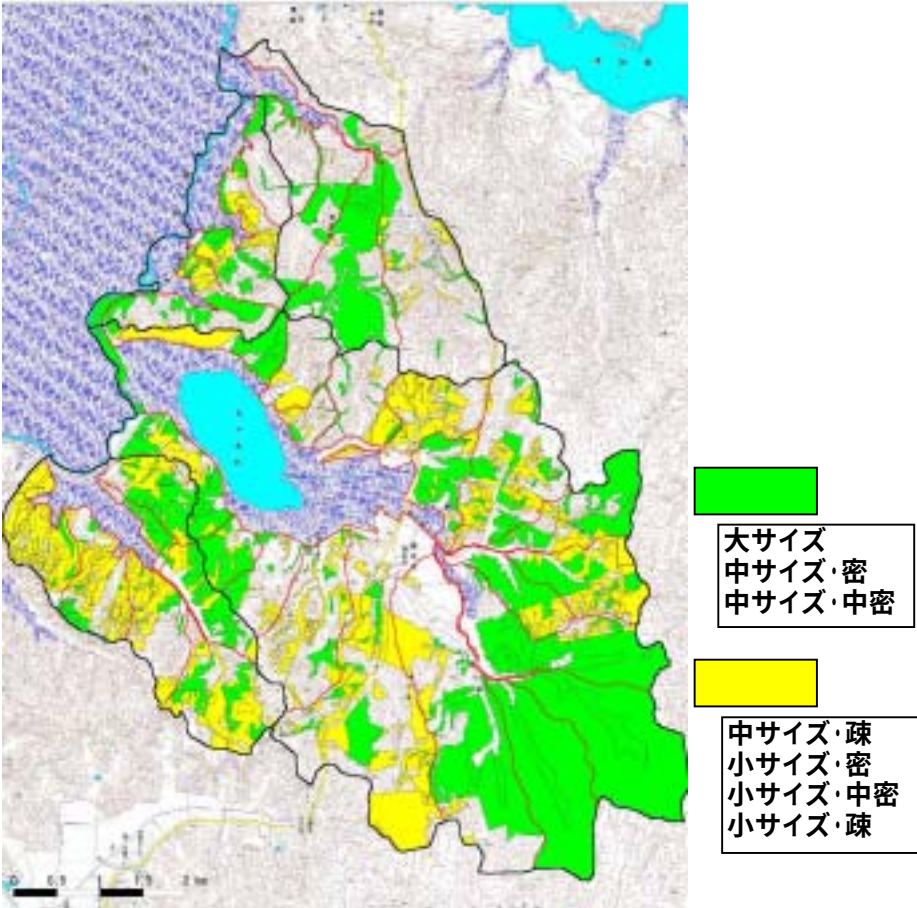


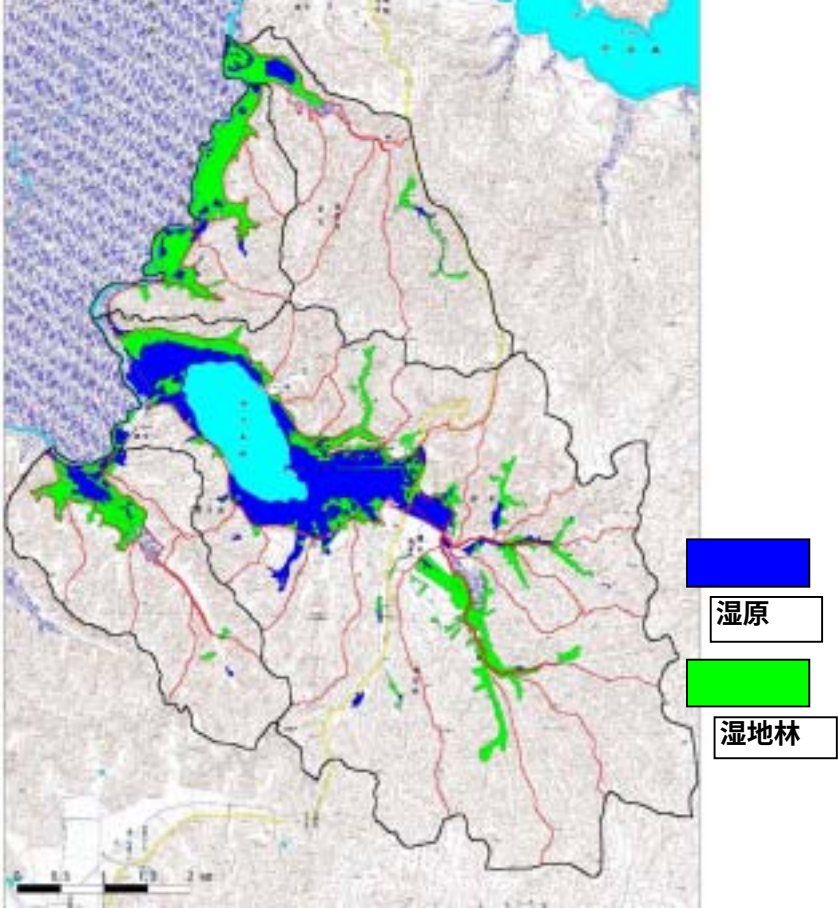
達古武地域における森林再生 ベースマップの作成と保全・再生優先度の検討 (6/10)
5-1. 保全・再生優先対象地の抽出 - 比較的良好な自然林・二次林 -

- 考え方
- 現在の植生の中でも現状維持することで自然生態系の保全に役立つ場所を抽出する。
 - 過去の森林と近い種組成で、サイズがある程度以上になっている森林を「比較的良好な自然林・二次林」として取り出す。
 - 湿原や湿地林も含める。

●中サイズ・中密以上の落葉広葉樹林



●湿原および湿地林



- 結果
- 全域の43%、1822haが抽出された。
 - 全域に分布しているが、特に南東部と釧路川沿いに多く見られる。
(4. の目標とする森林参照)

植生タイプ	面積 ha	比率
乾性落葉広葉樹林 (ミズナラ等)	1128	26.9%
湿性落葉広葉樹林 (ハルニレ等)	98	2.3%
湿地林 (ハンノキ等)	352	8.4%
湿原草地 (ヨシ等)	243	5.8%
合計	1822	43.3%



調査地点45・乾性落葉広葉樹林



調査地点28・湿性落葉広葉樹林

●比較的良好な自然林・二次林



- 今後の課題
- 今回は機械的に中サイズ・中密以上の森林を選出したので、今後、現地踏査結果などと照合し、さらに補正が必要である。
 - 今回は植生区分のみを用いたもので、社会条件(土地所有状況・利用状況等)は考慮していない。今後、社会条件からの分析も加え、保全方策について検討していく必要がある。